

(様式 1-3)

巨理町復興交付金事業計画 復興交付金事業等個票

平成 28 年 6 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	52	事業名	水産業共同利用施設復興整備事業（放置艇収容施設）	事業番号	C-7-3
交付団体	巨理町		事業実施主体（直接/間接）	巨理町（直接）	
総交付対象事業費	429,680（千円）		全体事業費	429,680（千円）	
事業概要					
<p>巨理町の漁業の復旧・復興を図るため、津波により被災した放置艇収容施設の復旧整備を行う。</p> <p>当該施設は、プレジャーボートの利用者の増加に伴い、荒浜漁港内で無秩序な係留が散見されるようになり、漁業者が円滑に漁業を営むうえで支障となっていたため、漁船・プレジャーボート各々の係留箇所を確保することで、漁港内の安全確保と利用の効率化を目的とし、水産庁漁港漁村活性化対策事業により整備した施設である。</p> <p>大津波により、当該施設の棧橋のみならず、係留されていたプレジャーボート自体も全て流出した。ボートを再取得した利用者の多くは、荒浜漁港が復旧の途中であるため、町外施設や自宅敷地を暫定的な置き場所としている。</p> <p>今回、岸壁、荷捌所等の漁港施設の災害復旧の進捗に伴い、プレジャーボート利用者の回帰が見込まれるため、当該施設を復旧整備することで、被災前同様、漁船・プレジャーボートの棲み分けを明確化し、荒浜漁港ないの安全確保及び利用の効率化を図り、漁港施設の円滑な復旧・復興に資するもの。</p> <p>巨理町震災復興計画 当該箇所：P35 2) 水産業の復興 P38 4) 観光業の復興・新たな観光の創出 荒浜漁港フィッシャリーナ施設復旧事業</p>					
当面の事業概要					
平成 26～27 年度 ・調査・設計委託 平成 28 年度 ・工事					
東日本大震災の被害との関係					
<p>東日本大震災の津波被害により、当該施設の棧橋は係船杭の一部を残し流失した（被害額約 2 億 8 千万円）。</p> <p>係留されていたプレジャーボートも同じく流失したが、利用者の意向状況から、従前と同等程度の利用が見込まれる。</p> <p>当該施設の復旧は、被災前同様、漁船・プレジャーボートの棲み分けを明確化し、荒浜漁港内の安全確保及び利用の効率化を図り、漁港機能の円滑な復旧・復興を実現するうえで必要不可欠である。</p>					
関連する災害復旧事業の概要					
・荒浜漁港災害復旧事業：平成 23 年度～平成 27 年度					

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	